

わかるサイエンス

2012年(平成24年)10月28日(日曜日)
読売新聞 朝刊 暮らし教育 23面 12版

最近の著書等

「微生物学」

本書はA.J.Strelkauskas博士が執筆された「MICROBIOLOGY a clinical approach」の翻訳本です。美しい図や表がふんだんに使われ、各章の初めに提示された「何故この章が重要なのか」「この章を学ぶ前に」「概観」、重要語句の説明がされた「補足」、単元毎の重要事項が列記された「覚えておこう」、多肢選択問題(ウェブ上)、臨床感染症学の症例が示された「臨床コーナー」など、微生物学・感染症学を完全にかつわかりやすく理解するための至れり尽くせりの教科書です。

「感染症のはなし」

本書は「新興・再興感染症とは何か」「HIV感染症/エイズ」「新型インフルエンザ」「ウイルス性肝炎」「STD(性感染症)」「がんウイルス」「プリオン病」「バイオテロリズム」の計8章から成り、感染症の発見の歴史から症状・治療・予防まで、社会との関わりを密接に交えながら解説しています。現代の我々がどのような感染症に罹患するおそれがあるかを理解して、自分自身および周囲や次世代の人々を、その感染症のおそれから防ぐために、今何をすべきかを感じ取っていただきたい。



MEDSI社(微生物学)
Amazon.co.jp(微生物学)
楽天ブックス(微生物学)



浅倉書店(感染症のはなし)
Amazon.co.jp(感染症のはなし)
楽天ブックス(感染症のはなし)



学ぼう

なっとく科学の1冊

感染症「敵」を正確に理解

3年前に「新型」として流行した「インフルエンザ(H1N1 2009)」。症状が比較的軽いが多かったが、それでも2009年3月本までに国民の6人1人がインフルエンザで受診したと推定され、1200人1人が入院、約200人が死亡した(厚生労働省調べ)。

あることを忘れてはならない。気が抜けないのは、過去30年の間に、病原性大腸菌O157や、エイズ、プリオン病など10を超える新興感染症が出現していることである。こうした感染症を中心に、その歴史と特徴、病原体や治療法の発見のドラマなをわかりやすくまとめたのが「感染症のはなし」(中島秀喜、朝倉書店)だ。特色は、エイズ研究をはじめ微生物学が専門の著者が、自らの体験を織り交ぜ、巧妙な病原体の交ぜ体を描き出しているところにある。感染症から身を守るには、「外敵」の正確な理解と行動であることと、的確な判断と行動であることとを教えてくれる。(長谷川里也)

